



筑紫路

発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目
61番地
Tel. 092-581-0431
ホームページ



「年頭の辞」



自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸将補 川口雅久

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健康に新春を迎えることとお慶び申し上げます。旧年は自衛隊福岡病院・春日駐屯地に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年は全世界が新型コロナウイルスによる暗雲に覆われ、その対応に難渋し、社会全体の動きや個人の行動様式も大きく変わりました。一方、閉塞感が漂いがちな世相の中、わが国においては、東京オリンピック・パラリンピックの整齊とした開催と日本人選手の活躍、大谷翔平選手のMLBにおける二刀流での躍動、真鍋博士のノーベル物理学賞の受賞など、明るく前向きな話題もあった一年でした。

さて、わが国を取り巻く安全保障環境は、このコロナ禍においても、否、コロナ禍であるからこそ、極めて速い速度で厳しさと不確実性を増しています。尖閣諸島

周辺での艦船航行を状態化させ、力による現状変更や既成事実化を加速させている中国。潜水艦発射型や不規則な軌道を取る弾道ミサイル等、兵器開発を進める北朝鮮。さらには、新たな軍事ドクトリンの下に軍事的活動を活発化させるロシア等に対し、わが国には抑止力・対処力の抜本的強化が求められています。また、宇宙・サイバー・電磁波といった新領域が死活的なものとなり、ゲームチェンジャーの登場は安全保障の在り方を根本的に変えようとしています。

さらに、国内では、地震や記録的な豪雨といった自然災害が頻発し、南海トラフや首都直下型地震等大規模災害がいつ生起してもおかしくない状況の中、わが国防衛の最前線にある陸上自衛隊には、あらゆる事態に即応し、適時・適切に対応することが求められています。

こうした状況の下、発生から約二年経つ新型コロナウイルス感染症への対応は、引き続き重要な任務の一つです。防衛省・自衛隊では、診療や検査のみならず、特種者や管理要員による医療支援や教育支援、さらには東京・大阪の大規模接種センターの運営、職域接種等幅広く活動してきました。自衛隊福岡病院・春日駐屯地においても、帰国者・接触者外来の開

前述の多様な活動を、全職員一丸となり実施してまいりました。

一方、厳しい安全保障環境の下、新型コロナウイルス感染症対応を院務運営の中心に置き続けることはできません。事態対処時には、中核型基幹病院として特任者の差出しや後送先病院としての機能を発揮できるよう、平素から経験を積み、識能を磨くことは必須です。また、隊員の健康管理を的確に支援することで、人的戦闘力を維持・増進することも重要な任務の一つです。病院では、平素の業務は事態対処能力向上に直結するものであり、その量的・質的な増進はこれまで以上に重要です。その遂行には、部内外の医療機関等を含めた総合的な計画・調整が欠かせません。悲願である新病院代替えも、その文脈と密接に関連したものであり、可及的早期の建て替え実現は、感染症対応を含めた事態対処等への必須事項、かつ、時代の要請であると考えます。状況を俯瞰し、適時適切な任務分析を実施した上で職務を遂行することにより、新型コロナウイルス感染症を克服し、西部方面隊の中核型基幹病院たる自衛隊福岡病院の『あるべき姿』を、信念と覚悟を持ち、前向きに追求する一年にする所存です。

最後に、自衛隊福岡病院・春日駐屯地に対し、変わらぬご指導・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶(春陽会会長)



春陽会会長
牟田 直

新年あけましておめでとうございます。春陽会の牟田でございます。皆さんは新しい年をどのような過ごしでしょうか。

昨年は、一昨年に引き続き新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。二〇二〇年十二月から上昇した第三波、五月にピークを迎えた第四波、デルタ株の流行で最大感染者数を記録した第五波と矢継ぎ早に大きな波に襲われ、緊急事態宣言が続く中、我々は制限された生活を強いられました。医療に従事する私たちは、増え続ける患者数を目の当たりにしながら、終わりの見えない戦いの日々を送っていました。

そんな中、明るい出来事もありました。東京オリンピック・パラリンピックは、無観客だったとはいえ開催されたことは喜ばしいことと思えました。日本選手の活躍を直に見ることができ、我々に夢と希望を与えてくれました。また、二月から始まった新型コロナウイルスワクチン接種も明るいニュースだと思います。このワクチン接種においては、大規模接種会場の管理運営に自衛隊が関与し、事故もなく無事に終了させたことは皆さんの記憶に新しいところだと思えます。日々、計画・立案・実行という訓

新年の挨拶(最前任上級曹長)



最前任上級曹長
小浦 泰

新年明けましておめでとうございます。新年を迎えるにあたり、病院の最前任上級曹長として、病院長の統率方針・要望事項を具現化する為、准曹士一人ひとりに身近に接し、一歩踏み込んだ服務指導を行い、病院長の意図の徹底を図りたいと思います。本年も宜しくお願い致します。

練で培ったノウハウを最大限に發揮した結果だと思っております。さて二〇二二年は、どのような年になるのでしょうか。二〇二一年十二月には、オミクロン株の出現が、ニュースを騒がせています。このオミクロン株の流行は、第六波の幕開けになる可能性は十分にあります。まだまだ予断を許さない状況に変わりはありません。しかしながら、三回目のワクチン接種開始や経口治療薬の開発など状況を改善させる要素は次々と出現すると思われれます。今年も、昨年に引き続いて、対策に追われる一年になるのかと思います。皆さんと一緒「疫病退散」「無病息災」であることを、そして一日も早く普段の日常の生活が戻ることを強く祈念し、新年のご挨拶といたします。

新着任部長の紹介

第2内科部長



2等陸佐 田中 宏史
前職：自衛隊熊本病院
先任診療科部長

皮膚科部長



2等陸佐 松尾 晋祐
前職：第4師団司令部
医務官

PCR検査

当院は、より高精度の遺伝子増幅が可能な、リアルタイムRT-PCR機器および、等温遺伝子増幅で迅速検査が可能なLAMP機器を保有しています。新型コロナウイルス感染症に対するPCR検査の実績は、約千五百件です。

(令和三年十一月三十日現在)



DCS訓練

令和三年十一月八日、西部方面隊計画の戦傷治療集合訓練(DCS訓練)を担当し、FST(前方外科手術班)要員のDCS能力の向上を図りました。部隊からの参加人数を制限せざるを得ないため、関係部隊に対し、Webによる同時配信を実施し情報共有しました。



患者空輸訓練

令和三年十一月十六日、目達原駐屯地において、西方ヘリ隊支援の下、病院職員十四名が参加し、患者空輸訓練を実施しました。



山地行進訓練

准看護学院学院長・山元二佐は令和三年十月八日、第四六期准看護師学生第二回山地行進訓練(宝満山系)を実施しました。入校して約半年の間に修得した知識・技術を活用し、模擬患者に対し適切な処置・搬送を行い、同期全員が無事完歩しました。



急勾配の百段ガングでの患者搬送
病院長視察(模擬患者処置場面)

戴帽式

准看護学院(学院長・山元二佐)は令和三年十一月八日川口病院長臨席のもと、第四六期生の戴帽式を挙行了しました。学生は入校以来、准看護師になるべく看護の知識・技術を習得し節目となるこの日を迎え「同期と共に看護の道を追求し続ける」と誓いました。



教務班長より戴帽を受ける学生



多くの参列者に見守られ式を挙行

エアテント取扱訓練

十月二十五日、春日駐屯地において、令和二年度補正予算により更新された感染症対策用陰圧式エアテントシステム(以下「エアテント」という。)の取扱訓練を実施しました。

このエアテントは、専用の装置でテント内部を陰圧にすることにより病原体が外部に漏れだすリスクを軽減し二次感染を防ぐほか、緊急時に迅速柔軟に設置できる等、感染症対策において重要な器材です。

今回、納品業者(太洋工業株)に開設から撤収における要点とコツについて説明を受けながら各部課からの要員(十五名程度)により開設しました。合わせて五十名近い多くの見学者にもエアテントの全般を普及することができ、充実した訓練となりました。



納入業者指導による開設



感染症対策用陰圧式エアテントシステム

人事往来

〈転出者〉

《十二月一日付》
総務部
(給食課)

二等陸佐 山本 弘士

一等陸尉 半澤 由香
一等陸尉 神崎 智美
一等陸尉 高取 しおり
一等陸尉 山中 明美
一等陸尉 植田 久美子

〈転入者〉

《十二月一日付》
企画室

一等陸尉 高井 静枝

総務部
(給食課)
三等陸佐 古賀 丈博

(医事課)
一等陸尉 高崎 美紀

(会計課)
二等陸尉 西口 誠一

看護部
一等陸尉 杉谷 佐智子
一等陸尉 川島 美佳
一等陸尉 淵野 富美
一等陸尉 萱島 幸子
一等陸尉 馬場 喜美代

定年退官者の紹介

《令和三年十一月二十二日付》
三等陸佐 清水 明子

《令和三年十二月二十一日付》
准陸尉 角田 孝樹

《令和三年十二月二十四日付》
陸曹長 池田 正弘